

【基調講演】

<<テーマ>>

「資料学」は独立した学問たりうるか
——資料と研究の関係について考える



■講師

橘川俊忠氏

(神奈川大学名誉教授)

日本常民文化研究所を基礎とした大学院の開設にあたって、どういう内容・どういう名称の研究科にするのか、学部の基礎がない専門大学院としての独自の性格をどう打ち出していくかが問われた。研究所は、研究分野としては歴史学と民俗学を中心とし、方法としては資料の収集・整理に基礎を置くという点に特色があるということから、その特色を強調するという意味で「歴史民俗資料学研究科」とすることに決定した。それから現在まで、研究所と研究科は、常に「資料学」を意識しながら活動続け、資料それ自身、資料と研究の関係、資料をめぐる研究者同士の関係など様々な問題に取り組んできた。今、「資料学」の新しい展開のためにその経験を総括すべき段階に到達したといっていよいであろう。歴史への恣意的な修正が横行する現在、そのことの意味はますます大きくなっている。

日時：2025 年 9 月 27 日(土) 13:00～14:30

会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス 4008 教室 会員優先

【大会日程】

11:30～12:00 総会
12:00～13:00 (昼休憩)

13:00～14:30 講演 橘川俊忠氏
14:30～14:45 (休憩)
14:45～16:45 個別研究報告
16:45～17:00 総括・閉会の挨拶

※対面参加で非会員の方は資料代 500 円いただきます。

参加申し込み：右 QR コード（申し込みフォーム）または下記事務局までメールにてお申し込みください。

◇主催：歴史民俗資料学研究会

◇問い合わせ先：研究会事務局 (rms.research.society@gmail.com)



<<<歴史民俗資料学研究会 2025 年度大会>>>

日時：2025 年 9 月 27 日(土) 13:00～17:00

会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス 4008 教室



【総会 (11:30～12:00)】(会員のみ)

橘川俊忠神奈川大学名誉教授による基調講演と各研究報告は一般公開 (ZOOM 併用)。
※要申し込み (2025 年 9 月 23 日まで)

【基調講演 (13:00～14:30)】(一般公開)

「資料学」は独立した学問たりうるか
——資料と研究の関係について考える」

講師 橘川俊忠氏(神奈川大学名誉教授)

司会：余瑋(神奈川大学歴史民俗資料学研究科博士後期課程)

【研究報告 (14:45～17:00)】(一般公開)

■14:45～15:25

「錫林郭勒牧区における「生活革命」から見た居住生活様式の変化」

鄧晶晶(神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程)

■15:25～16:05

「日記史料から見る太平天国戦争期の郷勇軍

——湘軍統領王鑫の日記を手がかりに——」

朱勃瑀(学習院大学人文科学研究科史学専攻博士後期課程)

■16:05～16:45

「中国と琉球帰属問題

——1912 年から 1952 年まで中国側の琉球政策を中心に——」

馬程浩(神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程)

コメンテーター：周星(神奈川大学教授)、砂本文彦(神奈川大学教授)

司会：加藤里織(神奈川大学日本常民文化研究所特別研究員)

■16:45～17:00

総括・閉会挨拶：後田多敦(神奈川大学教授)

◇主催:歴史民俗資料学研究会(Web サイト: hfms-shiryogaku.org)

◇問い合わせ先：研究会事務局 (rms.research.society@gmail.com)